

## 18. 建設材料の品質記録保存業務実施要領（案）

技調発第 523 号の 2  
昭和 62 年 9 月 24 日

## 目 次

1. 目 的	-----	18-3
2. 適用範圍	-----	18-3
3. 提出書類	-----	18-3
4. 記入方法	-----	18-4
5. 保存方法	-----	18-4
6. 総括表	-----	18-4

## 1 目的

- ・建設資材の品質記録を保存し、構造物の維持管理に資するものである。

## 2 適用範囲

- ・土木構造物の建設材料のうち下記の生コンクリートとコンクリート二次製品の外、甲が指定した材料に適用する。

### 1) 生コンクリート

- ・下記の構造物の無筋コンクリート

重力・半重力式の以下の構造物：橋台、橋脚、胸壁、擁壁（H = 1 m以上）

海岸構造物（基礎、裏込、根固を除く）

砂防ダム（堤体、側壁、水叩）

トンネル覆工

- ・下記の構造物を除く、鉄筋コンクリート

水路幅（2 m未満）、涵渠（1.0 m×1.0 m未満）

側溝蓋

### 2) コンクリート二次製品

管（涵）渠類（管渠呼称…1,000mm以上、涵渠呼称…1,000mm×1,000mm以上）

杭類

桁類

プレキャスト擁壁（H = 1 m以上）

シールドセグメント

## 3 提出書類

- ・品質記録図

1) 対象構造物及び二次製品の姿図を作図する。（トレス及び青焼）

2) サイズ……B 4版

- ・台帳

1) 生コンクリート品質記録表

(1) 配合

(2) 材料特性 ①セメント

②骨材

③混和材料

(3) コンクリートの品質試験結果

(4) 打設関係

2) コンクリート二次製品品質記録表

(1) 配合

(2) 材料特製 ①セメント

②骨 材

③混和材料

(3) コンクリート二次製品の品質

4 記入方法

- ・台帳及び品質記録図の数字はレタリングプレート使用（鉛筆又はインキング）とする。
- ・記録保存の項目

生コンクリートとコンクリート二次製品の原材料について品質特性を別紙記録紙に記録する。

なお、その他監督職員が指定したものについて記録するものとする。

5 保存方法

記録の保存は地方建設局文書管理規定の保存分類は第1項（永久）とし、事務所毎、年度毎にマイクロフィルム化して保存する。ただし、更新した場合は新規のものを永久保存し、旧のものは破棄する。

6 総括表

- ・総括表①……………対象工事毎に作成——（請負者作成）
- ・総括表……………年度毎、構造物毎に作成（マイクロフィルム化する時作成する。）——（事務所作成）



## 総 括 表 ( 2 )

構造物名 \_\_\_\_\_

年 度	工 事 名	施 工 地 先	施 工 位 置	摘 要

- (注) ・ 施工位置は杆標等を記入。  
 ・ 年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。  
 ・ 事務所で作成すること。

( B - 4 )

生コンクリート品質記録表

年 度

工 事 名

施工業者

(1) 配 合

番 号	種別	強 度		粗骨材 最大 寸法 (mm)	スラ ンプ の 範 圍 (cm)	空 気 量 の 範 圍 (%)	水 セ メ ン ト 比 W/C (%)	細 骨 材 率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )						生コンクリー ト会社名	JIS 工場指 定の有 無	摘 要
		呼び強度	設計基 準強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )						粗骨材G (kg/m <sup>3</sup> )		混和材料						
									水 W	セ メ ン ト C	細 骨 材 S	5mm ~ 20mm	mm ~ mm	混和 材			

- (注) ・番号は図面对象番号である。 (B-4)
- ・設計基準強度毎に、標準配合、特注配合、規格外の種別を書く。
  - ・摘要欄には構造物名を記入。
  - ・セメント欄には使用量とセメント名 (N、H、BB等JISA5308のセメントの種類による区分上の記号) を記入。
  - ・特殊な混和剤 (流動化剤、スチールファイバーなど) を用いた場合は添加方法を適要欄に記入。
  - ・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。
  - ・一つの構造物で、強度及び骨材寸法などが異なるものは、それぞれ別欄に記入。  
 [例・橋台の160kg/cm<sup>2</sup>(軀体)と210kg/cm<sup>2</sup>(パラペット)、橋脚の25%(軀体)と40%(フーチング)]

(2) 材料特性

年 度 \_\_\_\_\_

工 事 名 \_\_\_\_\_

施 工 業 者 \_\_\_\_\_

① セメント

番 号								製 造 会 社 名	製 造 年 月	摘 要
種 類		ポルトランド	高 炉							
		セメント	セメント							
種	類									
比	重									
比 表 面 積	cm <sup>2</sup> /g									
凝 結	始発	h - m								
	終結	h - m								
安 定 性										
圧縮強さ kgf/cm <sup>2</sup> {N/mm <sup>2</sup> }	1 day									
	3 day									
	7 day									
	28 day									
水和熱 (cal/g) {j/g}	7 day									
	28 day									
酸化マグネシウム(%)										
三酸化硫黄(%)										
強 熱 減 量(%)										
けい酸三カルシウム(%)										
アルミン酸三カルシウム(%)										
ア ル カ リ(%)										

(B-4)

(注) ・番号は図面対象番号である。 ・セメントの種類は、普通、早強、高炉A、B等と記入しそれぞれJISに規定された品質項目について記入。 ・各項目については、セメント会社が生コンクリート会社に提出した試験成績表を参考に記入する。 ・全アルカリ度については、セメント会社が試験しているNa<sub>2</sub>O+0.658K<sub>2</sub>O=R<sub>2</sub>Oの値を記入する。 ・複数の生コン工場を使用する場合は余白に記入する。 ・製造年月は試験成績表に記載してある年月。 ・製造年月が異なるセメントを使用した場合は余白に記入し摘要欄に番号を記入。 ・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。 ・製造会社は必ず記入、工場名はわかる範囲で記入。



年 度

工 事 名

施 工 業 者

② 骨 材

番 号	材 料 名		絶 乾 比 重	吸 水 率 (%)	粘 土 塊 量 (%)	洗 い 試 験 に よ っ て 失 量 わ れ る 量 (%)	原 石 名	塩 分 NaCl (%)	単 位 容 積 重 量 (kg/m <sup>3</sup> )	実 績 率 又 は 粗 粒 率	混 合 割 合 (%)	産 地	販 売 会 社	摘 要	
	細 粗 の 別	種 類													

- (注) ・番号は図面対象番号である。  
・材料名は細・粗骨材名を区分し、海砂、川砂、砕砂、砂利、碎石等と記入。  
・原石名は、何種類もあるときは採取されている原石とする。(玄武岩、安出岩 etc)  
・混合割合は海砂50%、山砂30%、砕砂20%等と記入。 ・産地は〇〇市〇〇町〇〇地先とする。  
・販売会社は採取業者とする。 ・摘要にはNaClの測定法を記入。  
・細骨材は粗粒率、粗骨材は実績率を記入。 ・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(B-4)

年 度

工 事 名

施 工 業 者

③ 混和材料

番 号		A E 剤	減 水 剤	A E 減水剤	製 造 会 社 名	製 造 年 月	摘 要
種	類						
品 名							
種 類							
減 水 率 (%)							
ブリージング量の比 (%)							
凝結時間の差 (min)	始 発						
	終 結						
圧縮強度比 (%)	3 day						
	7 day						
	28 day						
長 さ 変 化 比 (%)							
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数%)							
塩 分 (%)							

(B-4)

- (注) ・ 番号欄は、図面对象番号を記入。  
 ・ 混和剤の種類は、標準形、遅延形、促進形等を記入。  
 ・ 各項目については、混和剤メーカーが生コンクリート会社に提出した試験成績表を参考に記入する。  
 ・ 複数の生コンクリート工場を使用する場合は余白に記入。  
 ・ 製造年月は品質検査、試験成績表に記載してある年月。  
 ・ 年度・国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(3) コンクリートの品質試験結果

年 度 \_\_\_\_\_  
 工 事 名 \_\_\_\_\_  
 施工業者 \_\_\_\_\_

番号	種 別	呼び強度	設計基準強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	配合強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	σ 28 強 度(kgf/cm <sup>2</sup> )				ス ラ ン プ(cm)				空 気 量(%)				摘 要
					最 大	最 小	平 均	試 験 個 数	最 大	最 小	試 験 個 数	最 大	最 小	試 験 個 数			

- (注) ・種別欄は、標準品か特注品の別を記入。 ・呼び強度は JISA5308 (当該年度のもの) 適用。 (B-4)  
 ・目標強度は、変動係数等を考慮して各生コンクリート工場で定めている強度。  
 ・σ28強度は、呼び強度毎の試験結果とする。 ・スランプは、呼び強度毎の試験結果とする。  
 ・空気量は、呼び強度毎の試験結果とする。 ・σ7で管理した場合は、σ28の欄の上段に記入。  
 ・摘要欄に構造物名を記入。 ・特殊混和剤を用いた場合は添加後のスランプ、空気量を( )書きで上段に記入。  
 ・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(4) 打設関係

年 度 \_\_\_\_\_  
工 事 名 \_\_\_\_\_  
施 工 業 者 \_\_\_\_\_

番号	打設期間	打設数量	打設気温	打設方法	養生方法	打設会社名	摘 要
							H = L = φ =

- (注) • 番号欄は、図対象番号を記入。  
• 打設期間は、同種のコクリートの打設開始から打設終了までの期間を記入。  
• 打設方法は、シュート、バケツ、ポンプ打設等を記入。  
• 養生方法は湿潤、練炭、電熱養生等を記入。 • 打設会社名は、ポンプ打設の場合のみ記入。  
• 摘要欄に生コンの運搬時間 (H)、ポンプによる圧送距離 (L)、使用管径 (φ)。  
• 温度管理は打設時に測定した温度の最高と最低を記入。 • 年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(B-4)

コンクリート二次製品の品質記録表

年 度 \_\_\_\_\_

工 事 名 \_\_\_\_\_

施工業者 \_\_\_\_\_

(1) 配 合

番 号	製品名	設計基準強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	粗骨材 最大 寸法 (mm)	スラ ンプ の 範 囲 (cm)	空 気 量 の 範 囲 (%)	水 セ メ ン ト 比 W/C (%)	細 骨 材 率 s/a (%)	単 位 量 (kg/m <sup>3</sup> )						製造会社工場名	J I S 工場の 有無	摘 要	
								水 W	セ メ ン ト C	細 骨 材 S	粗骨材G (kg/m <sup>3</sup> )		混和材料				
											5 mm ~ 20mm	mm ~ mm	混和 材				混和 剤 (ml/m <sup>3</sup> )

- (注) ・番号は製品毎に図面に表示し、それを記入。  
 ・製品名は使用したコンクリート製品名を記入。  
 ・設計基準強度は、JISで規定がある場合は規定強度、ない場合はコンクリート製造工場が定めている強度を記入。  
 ・配合については、コンクリート製造工場が定めている配号を記入。  
 ・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(B-4)

(3) コンクリート二次製品の品質

年 度 \_\_\_\_\_  
工 事 名 \_\_\_\_\_  
施工業者 \_\_\_\_\_

番号	製品名	配合強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	コンクリート強度(kgf/cm <sup>2</sup> )			製品試験強度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	形状寸法	JIS 製品の 有無	製造年月	製造会社工場名	摘 要
			最 大	最 小	平 均						

- (注) ・番号は製品毎に図面に表示し、それを記入。  
・コンクリート強度は、コンクリート製造工場が日々管理している圧縮強度の製造月の平均値を記入。  
・製品試験強度はJISで規定されている試験方法で実施した結果を記入。  
・年度；国債工事の場合は〇〇年度～〇〇年度として記入。

(B-4)